

2022 年 9 月 26 日

# 博報堂教育財団 第15回、16回「日本研究フェロシップ」

## 成果報告書

### I. 研究成果概要

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 氏名（フリガナ）<br>在住国名         | 康 志賢（カン ジヒョン）<br>韓国                                  |
| 所属・役職                    | 全南大学校・教授   |
| 招聘回：招聘研究予定期間<br>（招聘研究期間） | 第15回：2021年9月1日～2022年8月31日<br>(2021年12月1日～2022年8月31日) |
| 受入機関                     | 早稲田大学  |
| 招聘研究テーマ                  | 近世絵画と絵入り本を通してみる日韓子供文化の美術史的・文学的調査と研究                  |
| 研究目的                     | 絵画と絵入り本の作品研究から帰納される観点を以って、近世の日韓子供文化の有り様を探る。          |

#### 研究成果概要

#### 1. どのように研究を進めたか（具体的に）

##### 1) 一次資料の収集

18・19世紀絵入り本と近世絵画を調査すべく、早大図書館のレファレンスサービスを通して、天理大学所蔵の川柳絵本『忠臣蔵新柳樽』と東洋大学・名古屋蓬左文庫所蔵の絵入り本『道外武者太平楽』の自筆稿本と版本が収取できた。

##### 2) 一次資料の閲覧・観劇

- ◆18・19世紀絵入り本・近世絵画と影響しあう視聴覚資料として次の古典芸能の観劇を行った。  
12月企画公演狂言・落語・講談；国立能楽堂、1月狂言の会；国立能楽堂、  
初春歌舞伎公演；国立劇場、1月花形演芸会；国立演芸場、豊竹咲太夫文化功労者顕彰記念・  
文楽座命名一五〇年5月文楽公演；国立劇場
- ◆受入教授より次のチケットを拝受し、展覧会を直接みることで、研究テーマの拡張ができた。
  - ・横須賀美術館「くもんの子ども浮世絵コレクション・遊べる浮世絵展」
  - ・千葉県立美術館「ジャポニズム；世界を魅了した浮世絵」

◆太田記念美術館「源平合戦から鎌倉へ；一清盛・義経・頼朝」展スライドトーク 7月14日  
受講

### 3) 研究交流

- ◆受入教授より子供絵画に関する多くの資料を提示して頂き、受入教授や他の研究者のサポートを得て、不明であった基礎資料の解説（絵師や本文の判読）ができた。
- ◆受入教授の千葉県立美術館における英一蝶、鍬形蕙斎、高嵩谷の肉筆画調査に同行し、肉筆画の調査方法を学び、膨大な資料の写真も提供された。

## 2. 研究によりどのような知見が得られたか（具体的に）

子供が読者でもあった草双紙と滑稽本、浮世絵を中心に研究した結果、次のような知見が得られた。

1) 式亭三馬作滑稽本『浮世風呂』では、大人に混じって登場する子供らによって、年齢別・性別に類型的な親と子供像が浮き彫りになる。具体的には、八歳前後の寺子屋通いの少年少女と、屋敷奉公の娘、それから勉強漬けの十一歳の娘の、主にお稽古のような習い事を通して、年齢や性別で典型的な子供像を浮き彫りにできた。そのような子供の種々相を通して、学芸と遊びのみならず、玩具、おやつ、趣味、周りの人間関係の一端まで垣間見られた。

2) 歌川広重画浮世絵である『風流をさなあそび』という子供遊び尽くし絵と、『諸芸稽古図会』という子供稽古尽くし絵、それから、十返舎一九画作草双紙であって、各々「菅原伝授手習鑑」と「仮名手本忠臣蔵」の世界に子供遊び尽しを趣向にした『初登山手習方帖』と『稚衆忠臣蔵』を考察した。その中でも勉強嫌いの反抗期の子を覚醒させるための、天神様の意外な教育方針がテーマである『初登山手習方帖』を主軸に、他の三作と見比べた結果、問題児に対する解決策として、鞭ではなく飴を与えるという教育観を作者十返舎一九が有していたことが見て取れた。就中、「ヘンゼルとグレーテル」の「お菓子の家」を先んずる「お菓子の庭」という発想に注目できた。

3) 悪戯盛りの子供たちの寺子屋における授業風景を捉えた絵柄は、安永九年刊・下河辺拾水画の絵本『画本弄』、広重画『諸芸稽古図会』「手習」にも展開する。後者の「よみもの」の図像では、教科書の読み方をテストしていて、できなかつた生徒が師匠に頭をポンと打たれる瞬間と、まずそうに頭を搔いている周辺の生徒たちが描かれる。朝鮮の金弘道画「書堂」（十九世紀初めごろ制作）という肉筆風俗画と比較することで、同時代を生きた風俗画家たちの同じ趣向、同じ視線が興味深いところであった。

## 3. 研究成果（予定を含む）

○論文（題目、掲載誌、発行者、掲載月、内容の概略）

- ・「草双紙、滑稽本、浮世絵における子供の学芸と遊びからみる児童教育観」（仮題：投稿予定）、  
掲載誌未定、発行者未定、掲載月未定

-内容の概略：江戸戯作と浮世絵には子供たちが生き生きと活写される。その中でも銭湯に集まる様々な子供の生態が窺える『浮世風呂』及び、子供遊び尽くしの『初登山手習方帖』からは、子供の玩具・娯楽・おやつ・躰の教育・お稽古の種類まで読み取れる。

#### ○口頭発表（題目、イベントの名称、日・場所、内容の概略）

- ・「草双紙にみる子供の学芸と遊び」（韓国日本語教育学会、日・場所未定）

-内容の概略：遊び盛り・悪戯盛りの子供たちの日常をさらに追跡すべく、子供遊び尽しを趣向にした『初登山手習方帖』（寛政八・1796年刊）に注目する。勉強嫌いの反抗期の子を覚醒させるための、天神様の教育方針がテーマである本黄表紙を主軸に、他の浮世絵や絵本、黄表紙と見比べたい。

#### ○その他の活動

次のような学会・研究会・シンポジウムにオンラインで参加できた。

9. 04. 近世文学研究会/9. 25. 韓国日本語教育学会発表/10. 15. 日韓古典研究会/10. 16. 韓国日本語文学学会発表/11. 06. 近世文学研究会/11. 13. 韓国日本語文化学会発表/11. 14. 国際浮世絵学会/11. 20. 日本近世文学学会/12. 11. 歌舞伎学会 2021 年度秋季大会/12. 18 韓国日語日文学会発表/1. 21. 日韓古典研究会/1. 22. 近世文学研究会/1. 12. 韓国日本学会発表/2. 28. 法政大学シンポジウム「東アジア近世・近代都市空間のなかの女性」/3. 5. 近世文学研究会/3. 12. 豊橋創造大学国際シンポジウム「東アジアにおける笑話」/3. 19. 青山学院大学国際シンポジウム「歌舞伎の東西—絵と文化—」/3. 19. 国文学研究資料館日本古典籍セミナー「江戸時代の大衆文化—浮世絵・戯作・書肆—」/3. 20. 日文研シンポジウム「小袖をめぐる言葉と形—西川祐信『正徳ひな形』を読む—」/4. 9. 近世文学研究会/4. 15. 日韓古典研究会/4. 16. 韓国日本研究総連合会発表/5. 14. 韓国日本語文学学会発表/5. 14. 近世文学研究会/5. 28. 韓国東アジア日本学会発表/6. 5. 国際浮世絵学会/6. 11~12. 日本近世文学学会/6. 18. 韓国日語日文学会発表/7. 9. 近世文学研究会/7. 15. 日韓古典研究会

#### 4. 今後の活動予定

今後は、まだ調査中である近世絵画の研究に集中する。「子供浮世絵」に関する資料の補足と収集を続け、「近世絵画が描き出す子供象—誕生・服装・表象」の分析・考察を行う予定である。それから、江戸期絵入り本に表象された文学的児童観として、(1)嫁入物における人生教育、(2)昔話物における子供の昔話享受、(3)子供の愛する化物と英雄、(4)十返舎一九作品における児童教育観を、近世絵画のそれと比較検討する研究も必要で、今後の課題としたい。